

総合リハビリテーションセンター病院の目標と現在の取組等について

民間病院と役割分担し、リハビリテーションの中核施設としての位置づけを明確するには、概ね3年後の目標を掲げ、実効性がある取組を行う必要がある。同時に、経営改善に取り組み、自立的な運営体制にしなければならない。

今後、さらに実施すべき取組を検討するため、現在着手している取組等を整理した。

項目	目標(3年後)	現在の取組・今後の取組(予定)
神経難病	「神経難病センター」を設置し、医療機関からの相談を受けるほか、神経難病の対象患者を拡大し、難病患者を積極的に受け入れる病院とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・パーキンソン病以外にも対象を拡大。脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、多発性硬化症などの患者の受入を進めるため、県内の脳神経内科の病院、患者団体、難病相談センターなどを訪問した。 ・医師会等主催の医療関係者を対象にした講演会のほか、難病ヘルパーを対象に講習会での講演を行い、センターが提供する医療のPRを実施している。 ・今後、地元医師会とさらなる連携が強化できるか相談を行う。
	神経難病の高度医療である脳深部刺激療法(DBS)の症例数を県内トップクラスとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・医師へのPRとして、センターの医師によるオンライン講座(パーキンソン病に対する脳深部刺激療法(DBS))を実施した。
若年者リハビリ	「若年者リハビリセンター」を設置し、就労復帰を希望する患者が県全域から紹介される病院とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・センターに入院、通院している患者が少なく、かつ、人口比で回復期病床が少ない県北部の急性期医療機関と連携を強化できるよう、訪問等を行う。
障害者医療	「障害者医療センター」を設置し、痙縮の治療であるボトックス治療の件数を拡大し、県全域から患者が紹介される病院とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・センター周辺の障害者支援施設、障害者団体へ訪問してPRを行っている。
人材育成	リハビリテーションの高い技術力の習得を目指し、総合リハビリテーションセンター病院に人材が集まる病院とする。また、地域の医療機関からリハビリ指導を要請される病院とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・実務研修生の受入について、緊急事態宣言の発令により一部実習が中止となったが、それ以外は順調に研修生を受け入れている(令和3年度上半期実績:13件65人(延べ668人))。
職員の意識改革	職員の意識改革が図られ、職員が病院運営に積極的に参画する病院とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・センター内に具体的な改善策を提案するため、職種・職位・所属横断的なメンバーで構成されたワーキングチームを立ち上げ、職員がそれぞれの立場で積極的に取組を議論し、病院幹部へ提案している。 (①神経難病センター設置準備、②若年者リハビリセンター設置準備、③障害者医療センター設置準備、④新たな診療報酬算定等への取組、⑤災害リハビリテーション等地域支援への取組、⑥リハビリ職員不足への対応検討、⑦新型コロナウイルスワクチン接種準備プロジェクト) ・「神経難病センター」「若年者リハビリセンター」「障害者医療センター」の設置に向け、ワーキングチームを立ち上げ、どのような医療を提供するかを検討し、医師、看護師、リハビリ職、医療ソーシャルワーカー、事務職が県内の病院、福祉施設等への訪問活動等に取り組んでいる。 ・全職員を対象とした会議を四半期ごとに開催し、アクションプランで掲げた目標に対する進捗を確認し、必要な指示を行っている。 ・センターの目標を各職員の人事評価における行動目標の設定と連動させ、見える化を図っている。